

ブラジルを離れるにあたって、今思うこと

～2019年8月4日（日） 帰国途中の機内で～

【東出 大和】（ひがしで やまと）3年生

まず、最初に思うことは自分のサッカーがブラジルで通用したかです。ブラジル遠征では自分の良さがまったく出せなかったです。こんな貴重な遠征なのにあまり良さが出せませんでした。しかし、日本に持ち帰りチームの仲間に伝えることができます。ブラジル遠征で学んだ事を日本にしっかり伝えたいです。

ブラジル遠征で学んだことは、1つ1つのプレーの質の差です。トラップ、ドリブル、シュートなどアベリヤスでできていないことが当たり前になっていました。今僕は中3なので残りの半年くらいでブラジル人が当たり前に行っていることをまねして当たり前にし、ブラジル人ができない技もできるようにして高校に行きたいです。

あとは、ここまで支えてくれた親やコーチ、アルモニアの先生方、相手チームのコーチなど、ブラジル遠征を支えてくれた人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を活かしてこれからサッカーを続けていきたいです。

【西澤 昌作】（にしざわ しょうさく）3年生

はじめは日本が恋しかったけど、いざ帰るとなるともっといたいという気持ちが大きい。ブラジルでもっと初めからできることを全てやっておけば良かったと後悔している。でもブラジルで学んだことを日本でアベリヤスをもっと強くするために、チームのとして受け継いでいかななくてはいけないと思う。ブラジルでの意識を日本の試合でも続けていくことが大切だから続けていく。

【大内 晴貴】（おおうち はるき）2年生

ブラジルにいた16日間でたくさんのことを学べたと思います。まず自分達はたくさん

の人に支えられているということを実感しました。親、チームメイト、ペドロコーチの家の人達、アルモニアの人達、ホームステイ先、対戦相手などたくさんの支えがあつてのブラジル遠征だったと思うし、支えがなきゃ何もできなかったんじゃないかと思います。ここで支えられたことの大半を親、コーチが日本でやってくれていると思います。ここで時間したことを日本でもできるように、親やコーチたちの負担を少しでも減らしたり、ブラジルに行かせて良かったと思われるような生活、プレー、心構え、意識を変えていかなきゃいけないと思います。環境に甘えずやっていきます。

プレー面では、今まで一緒にやった対戦相手、負けた相手にいつか見返せるようにこれからの練習の意識を変えていかなければいけません。ブラジルの球際の強さ、ファーストタッチの質、パススピードを見て覚えている間に実際にやり、自分達がチームのレベルを上げて行けるようにしていきます。ブラジルに行かせて良かったというプレーをするために必要なのは意識の向上です。1人1人の意識を一段階上げて、もっと良いプレーをするために練習していきたいと思います。

<今後の課題>

- ・自分がミスが減らし、1試合に相手に当てる回数を最小限にする。またブラジル人が自分達にやってきたアプローチを今度は日本で自分達が相手にやる。
- ・残り2試合をしっかりと勝ってクラブユースシード権をとる。だいぶ先のことだが、県リーグ全勝で2部昇格させる。

【宮崎 恵輔】(みやざき けいすけ) 2年生

ブラジルのサッカーをたくさん学べたと思う。1つ目は、ブラジル人は必ずシュートを決めてくる。自分達が攻めきる前にボールをとられると、必ずゴール前やシュートを打って終わる。それが起きないようにし、自分達がそれをできるようにしていきたいと思った。2つ目は、ブラジルの試合を観て、ボランチの選手はパスを受けたらワンタッチのプレーが多い。これは、ブラジル人はアプローチが速いからすぐにボールを離さないと取られてしまうからだと思った。自分達はボランチなどの選手がすぐにボールを取られて失点してしまう。だから、ワンタッチのプレーを増やしていかないとアプローチの速い相手にはシュートが決められないと思った。

ブラジルの景色はとても印象に残っている。海もきれいだったし、山の上から見た景色もきれいだった。中でもロープウェイで行った山(ポンジアスーカル)からの夜景はとてもきれいで感動した。また、バスの中で思ったことがある。それはブラジルの壁やへいなどには絵がたくさん描いてあり、日本ではあまり見ないので不思議に思った。

ブラジルで学んだ事を活かして残りの1年でアベリャスがブラジルのサッカーができるようにしていきたい。また、高校に行ってもこの遠征で学んだことを出しながら活躍で

きるようにしたい。この遠征ができたことに、親やコーチ、ブラジルの人達、などのいろいろな大人のひとたちに感謝している。

【前田 力生】(まえだ りき) 2年生

日本に残った仲間にブラジルでの生活などを教える。ブラジル人はみんな基本的なパス、トラップ、キックなどといったことが全員できていた。ペドロコーチやアルモニアのみなさんのこと、頭の中で何回もお別れした空港が、頭から消えなかった。

ブラジルの子ども達はサッカーが好きでやっているけれど、貧しい子たちは自分の兄弟や親を守りたいという気持ちでサッカーをやっている。ブラジルの人はコーチ達が言っている事を当たり前のようにやっていた。仲間には話は聞かせられるけど、経験をつんだことにはならないから、今回のブラジル遠征で学んだことをしっかりと日本で活かしたい。まず、お母さんやお父さんにも、こんな一生に一度かもしれない経験をありがとうと伝えたい。

【平田 直輝】(ひらた なおき) 2年生

ブラジル人のアプローチや攻撃を日本にいる仲間に伝えて、練習からアプローチを強くいってブラジルのレベルに追い付けるようにして、日本のレベルを上げていきたい。あと、親にありがとうという気持ち、自分はこんなに大人になったんだというのを見せてブラジルに行かせて良かったと思えるようにできると思いました。

日本にいるコーチたちに、こんなに意識が変わったんだ、うまくなつたんだ、というのを見せていきたい。

【高橋 藍斗】(たかはし あいと) 2年生

最初は長いと思っていたけれど終わってみればあっという間だった。ブラジルでいろいろなチームとやれたけど、もっといろんなチームと試合してみたかったし、物足りない気がする。いろいろな思い出が作れたし、ブラジル人はみんな親切にしてくれたので、日本に帰るのはちょっとさみしい。

また来れる機会があったら(ブラジルに)来たい。

【市瀬 広樹】(いちせ ひろき) 2年生

今から振り返ると2週間もあったのにあっという間に終わってしまった。もっとコーチの話を理解して実行できていたら、もっと良いサッカーができたしもっと成長できたと思う。ブラジルはスクールでもうまい選手がいたし、日本では簡単にクラブに入れるけどブラジルはもっと高いレベルでサッカーをやっている。試合への思いや集中力がすごかった。

ブラジル料理もおいしかったし、ブラジル人はみんなフレンドリーで楽しかった。最初は、フェジジョンはあまり好きじゃなかったけど、日に日においしく感じた。

【中島 健太】(なかじま けんた) 2年生

最初は遠征が終わるまで長いなと思っていたけど、終わったら早かったなと思った。時間は短く感じたけど、経験は多かったから、この経験を活かして日本でも頑張りたい。ブラジルに行けなかった選手にもブラジルのサッカーはどのような感じだったのか、日本とブラジルの差は何だったのかなど、学んだ事を伝えられるようにしたい。ブラジルで食べたものは、この遠征だけで終わりにするんじゃなく、日本でもできるだけ食べてしっかり体を作れるようにする。また、日本で誰にも負けない体を作る。

【由良 匡汰】(ゆら きょうた) 2年生

- ・ブラジルで学んだ事を日本で活かしたいと思う。
- ・ずっと付き添ってくれたコーチやアルモニアの人、ペドロコーチ、ペドロコーチのお友達などいろいろな人に感謝。
- ・ブラジルに行っていない人にブラジルで学んだ事を少しでも教える。
- ・次の試合やフットサル、高円宮杯で良い結果を出す。

【佐藤 光翼】(さとう こうすけ) 2年生

長いようで短いブラジル遠征だったが、確実にブラジルに行かないと気付けなかったことに気づけて考えられた。また遠征に関わってくれた全ての人達に「感謝」を忘れずに生きる。

ブラジルの人達は、本当に15歳？ 本当に14歳？ そう思える選手ばかりで、見て学んだり、体験して学んだり、学んで感じた事を日本のピッチで出せたり、オフザピッチで

も周りに気を配り、親が見ても学校の人が見てもコーチが見ても「こいつ変わったな」「ブラジルに行った価値があったな」と言われる成長ぶりを見せられるようにしたい。またいつかブラジルに来た時、ブラジルの選手と戦った時、今回は大差で負けたけどブラジル人に勝てるように、日々モチベーションや練習の激しさを高めて今度はブラジル人に勝てるようにしたい。

この遠征は素晴らしかったし、アルモニアの人達や、家族、コーチ、サッカーチームなどに心から感謝したい。

【小池 隼太】(こいけ はやた) 2年生

ブラジル遠征は今思うととてもあっという間だったなと思いました。ブラジル遠征ではいろんなことを感じる事ができたし、日本ではわからない自分に足りないことを知ることができた。自分は気持ちの部分がまだまだ足りないことを実感することができた。そしてチームのための行動が、ピッチの中でもピッチの外でも足りないことを、この遠征を通して今の自分に一番足りないものじゃないかなと思いました。ブラジル遠征で感じたこと、まなんだことを自分だけでなく来れなかったチームのみんなにも伝えたいと思います。そして自分に足りないと感じたことを日本で直してもっと良い選手になれるように頑張りたいです。

この遠征ではブラジル人のフレンドリーさや温かさも感じる事ができました。そしてホームステイや(学校の)授業に参加させてくれたり、サントス、ポルトゲーズなどの名門と試合させてくれたアルモニアの人達、コーチ達に感謝したいです。そして、この遠征に参加させてくれた親にも感謝したいです。日本に帰ったら感謝の気持ちを伝えられるようにしたいです。そしてこれから親が試合や練習、普段の生活を見てブラジルに行かせて良かったと思ってもらえるようにしたいです。いろいろなことを感じる事ができた3週間でした。

【後山 唯斗】(のちやま ゆいと) 2年生

ブラジルを離れるにあたって、あっという間だと思いました。2週間という長い期間だけど早く感じました。まず、ブラジルに行かせてくれた親に感謝し、この遠征をより良いものにしてくれたコーチ達に感謝したいと思います。あとブラジルに来ていない人達にパススピードの速さ、アプローチの強さ、点が入ったときの雰囲気などをプレーで伝えたいと思います。日本に帰ったら、意識を変えて、練習の質を高める。

【平木 誠】(ひらき まこと) 2年生

ブラジルを離れる時に、最初は、2週間は長いと思っていたけど、時の流れが早く感じました。ブラジルではいろいろな人にお世話になりました。リオではペドロコーチ、ペドロコーチのお姉さん、ペドロコーチのお手伝いさん、サンパウロではフラビオさん、マリオさん、アルモニアの人たち、ホームステイの人たち、たくさんの人たちにお世話になりました。

試合ではだいたい大差で負ける試合が多くて自分も（GKとして）死ぬ気でボールを止められずにみんなに迷惑ばかりかけていて、ブラジルで成長するために来たのに成長できないで、いつも試合で自分の出ている試合のときだけ失点が少なく、何が自分に足りないのかを考えられずに、自分が出た時だけ大量失点してしまいました。自分はコーチにいつも何か言われてばかりで、ブラジルに来た意味を考えて、次にブラジルに行く後輩たちにブラジルの事を教えてあげたいです。

最後にブラジルに行かせてくれたお父さんとお母さんに感謝して、次は自分でブラジルに行けるようにしたいです。

【藤島 陽向】(ふじしま ひなた) 2年生

日本の裏側のブラジルにサッカーに行かせてくれたお父さん、お母さんにお礼を言いたい。そして遠征のために準備してくれたペドロコーチ、古川コーチ、旅行会社の人などにもお礼を言いたい。

僕はブラジルで本場のファーストタッチやスピードの使い方、体のあて方、シュートの質など日本にいれば見ることのできないたくさんの事を見ることができた。なので、ブラジル遠征に来ることができなかった人にも、日本で成長できるようになるべく多く仲間に伝えて練習の質などもどんどん上げていけるようにしたい。ブラジルのディフェンスの人は死に物狂いでディフェンスに来て、日本だと多くできるオーバーラップもうまくいかないことが多く、日本だと気づかない自分の課題が多く見つかった。ブラジルで見つかった課題はすぐには直せないけど、少しずつ直していけるように、ブラジル遠征をただ行っただけでは終わらせないようにしたい。